

# 日税FPメルマガ通信



2024年3月21日発行

編集:税理士 FP 実務研究会事務局

(株)日税ビジネスサービス

東京都新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルクワ-29階

第405号

## ◆新 NISA の「つみたて投資枠」と「成長投資枠」は どっちをメインにする？

2024 年 1 月からスタートした新 NISA には、「つみたて投資枠」と「成長投資枠」という 2 種類の投資枠があります。

しかし、「つみたて投資枠と成長投資枠の違いが分からない」「どっちをメインに投資をすればいいのか分からない」という方も多いのではないのでしょうか。

今回は、新 NISA のつみたて投資枠と成長投資枠の違い、それぞれの投資枠の使い分け方について詳しく解説します。

### 1. 新 NISA の「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の違い

まずは、新 NISA の基礎知識として、「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の違いを見ていきましょう。

#### 「つみたて投資枠」とは

つみたて投資枠とは、従来の NISA 制度における「つみたて NISA」に当たる部分です。従来のつみたて NISA では年間 40 万円だった非課税投資枠が、新 NISA では年間 120 万円に拡大されました。

購入可能な商品については、従来と変わらず「長期の積立・分散投資に適した投資信託」に限定され、対象商品は金融庁によって選定されています。

投資初心者や毎月一定額を積立投資したいという方は、つみたて投資枠での投資が向いているでしょう。

#### 「成長投資枠」とは

成長投資枠とは、従来の NISA 制度における「一般 NISA」に当たる部分です。非課税投資枠は年間 240 万円で、従来の一般 NISA の 2 倍にまで拡大されました。

また、成長投資枠には、投資可能な商品の種類が多いというメリットがあります。つみたて投資枠で購入しているような長期の積立・分散投資に適した投資信託はもちろん、アクティブファンドなどのハイリスク・ハイリターンと言われる投資信託も購入できます。

国内株式や外国株式、ETF(上場投資信託)や REIT(不動産投資信託)の購入もできるため、投資経験が豊富で、NISA の非課税枠でさまざまな商品に投入したいという方は、成長投資枠を上手に活用すると良いでしょう。

## 2. 新 NISA の「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の使い分け方

従来の NISA 制度では、「つみたて NISA」と「一般 NISA」は併用することができませんでした。

しかし、新 NISA の場合は、「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の併用が可能です。

続いては、新 NISA のつみたて投資枠と成長投資枠の使い分け方について、3 つのパターン挙げて解説します。

### 「つみたて投資枠」だけを利用する

投資初心者にもまずおすすめしたいのが、つみたて投資枠だけを利用する使い方です。

新 NISA であれば、つみたて投資枠だけでも年間 120 万円の投資ができ、非課税保有限度額は 1,800 万円もあります。また、非課税枠の再利用も可能です。

つみたて投資枠なら、金融庁が認めた積立投資に適した投資信託しか購入できないため、安心感があります。また、それらの投資信託は信託報酬などの保有コストも低めに設定されているケースが多いです。

ただし、「投資に慣れてきて、株式や ETF などにも興味が出てきた」という場合、つみたて投資枠での投資だけでは物足りなさを感じてしまうかもしれません。

### 「成長投資枠」だけを利用する

投資経験が豊富な方、長期的な資産形成ではなく、短期で利益を確定させるような投資をしたい方は成長投資枠だけを利用しても良いでしょう。

成長投資枠なら、国内株式や外国株式、ETF など幅広い選択肢の中から投資商品を選ぶことができます。

また、必ずしも積立投資にする必要はなく、一括での購入も可能で、年間投資枠は 240 万円です。

ただし、成長投資枠だけを利用する場合、非課税保有限度額は 1,200 万円となります。

### 「つみたて投資枠」と「成長投資枠」を併用する

つみたて投資枠と成長投資枠の併用には、新 NISA の投資枠をフル活用できるというメリットがあります。

つみたて投資と並行して、株式や ETF を購入するという方法が一般的ですが、成長投資枠でつみたて投資をすることも可能です。

新 NISA では、つみたて投資枠と成長投資枠で同じ銘柄を買うことも認められています。例えば、年間 120 万円(毎月 10 万円)の投資枠では足りない場合には、成長投資枠の 240 万円をつみたて投資に回すこともできます。つまり、最大で年間 360 万円(毎月 30 万円)のつみたて投資ができるということになります。

投資資金に余裕があるなら、つみたて投資枠と成長投資枠の 2 つを併用し、積極的に非課税枠での投資を行うのが良いでしょう。

### 3. 新 NISA の「つみたて投資枠」と「成長投資枠」はどちらをメインにする？

新 NISA で「つみたて投資枠」と「成長投資枠」のどちらをメインにするか、それぞれの枠をいくら使うかは、個人の判断に委ねられています。

基本的に、投資初心者や初めて NISA を始める方は、つみたて投資枠をメインにスタートするのがおすすめです。

新 NISA は、つみたて投資枠の非課税限度額が年間 120 万円に拡大されたため、つみたて投資枠だけで運用しても十分です。

つみたて NISA で運用をしながら、資金に余裕のある場合は、つみたて投資枠と成長投資枠を併用するのがおすすめです。

#### <著者プロフィール>

福田 猛 氏

ファイナンシャルスタンダード株式会社 代表取締役

大手証券会社入社後、10 年間、1,000 人以上の資産運用コンサルティングを経験。2012 年 IFA 法人であるファイナンシャルスタンダード株式会社を設立。独立系資産運用アドバイザーとして数多くのセミナーを主催し、幅広い年齢層の顧客から支持を受け活躍中。

著書に「金融機関が教えてくれない 本当にお金を儲けるべき投資信託」(幻冬舎)がある。2015 年 楽天証券 IFA サミットにて独立系ファイナンシャルアドバイザーで総合 1 位を受賞。

■■■■■ 著作権 など ■■■■■

著作権者の承諾なしにコンテンツを複製、他の電子メディアや印刷物などに再利用(転用)することは、著作権法に触れる行為となります。また、メールマガジンにより専門的アドバイスまたはサービスを提供するものではありません。貴社の事業に影響を及ぼす可能性のある一切の決定または行為を行う前に必ず資格のある専門家のアドバイスを受ける必要があります。メールマガジンにより依頼することによりメールマガジンをお読み頂いている方々が被った損失について一切責任を負わないものとします。

#### 参考

経済金融情報メディア「F-Style」:<https://fstandard.co.jp/column/>

“F-Style”とは？

人々のくらしと密接に関わる「お金のヒミツや仕組み」を、より分かりやすくお伝えする経済金融メディアです。